

## 第八十日目

師 範：1929年の世界恐慌は日本にも及び、翌年から昭和恐慌といわれ、農業や工業に深い傷を負わせました。



東北の農村はそのころ、凶作だけでなく、豊作による米価低落からも「ききん」に襲われて、農家の生活は成り立たなくなっていました。

町では倒産する企業が続出し、失業者が増え、就職もできませんでした。

不況の中で、大銀行や大企業はますます力をのばし、少数による産業や経済の支配が進みました。

このころの兵士たちは、貧しい農村の出身者や町の労働者の家庭の若者が多く、貧しさに苦しむ家族のことを考え、財閥の繁栄との矛盾した社会に不満を抱くようになっていました。

海軍の青年将校たちは、資本主義を否定して、農業を基本とする社会を築くために軍部に強力な権力をもたせ、すばやく政策を実行する軍部独裁政権をつくらうとしました。

1932年、軍部の独走をはばみ、陸軍を統制しようとした犬養毅首相は海軍の青年将校らに襲われ、殺されてしまいました。

8年間続いた政党内閣は、これで終わってしまいました。

### 1932年 五・一五事件がおこる。

この年を覚えましょう。

コン太：やさしそうでむずかしい。



#### 「軍人が 戦に引き込む 五・一五」

「いくさに」で1932をそのまま読みました。

ペン太：ぼくは



#### 「兵士の一組に殺された犬養首相」

「ひとくみに」は1932をそのまま読みました。

師 範：二人とも事件のキーが入っていて、よくできています。

短い言い回しを心がけるといいですね。